

日時 平成27年11月18日(水) 第5校時

学級 第6学年1組 31名

単元名 絵を読んで言葉に！みんなでよさを伝えよう「鳥獣戯画」

1 指導事項

○考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理すること。「書くこと」ア

○事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。「書くこと」ウ

○目的に応じて文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係をおさえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること。「読むこと」ウ

○語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。(事項イ-(カ))

2 言語活動 絵画作品のよさを伝えるための文章を書く。

『鳥獣戯画』を読む』は、鳥獣戯画という絵画作品のよさや面白さについて、アニメーション映画監督である高畑勲が評論したものである。絵画作品の良さを話し合う時に、写实的であったり、デッサンの力が高かったりと、画力の高さについて巧緻を見つけることはできるが、その作品の魅力を伝えようとすると、一つの作品には、筆遣いや、その絵から想像できる物語、その作品が生まれた時代背景、その作品が後の世に与えた影響など、実に多くの魅力の要素が含まれていることに気付く。また、その魅力を伝えるための文章の書き方も工夫する要素がある。『鳥獣戯画』を読む』は冒頭、「はっけよい、のこった。」という言葉から、実況風の語り口で始まっている。絵の物語の中に読者を引き込む巧みな文章の工夫がされているのである。こうした評論の工夫を見つけ、まとめていくことで、自分たちで絵の面白さを伝えられるようになることが今回の言語活動の目的である。また、学習、この単元でまとめた絵画作品の魅力を伝えるための方法を次の単元「この絵、私はこう見る」へとつなげていく。絵画を「読む」ことが出来るよう、『鳥獣戯画』を読む』を読むことで、評論のポイントをきちんとおさえることができるようにしたい。

3 単元の目標

○絵と文章との関係を押さえて筆者の考え方を捉え、自分の考えを明確にしながら読むことができる。

○文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

4 児童の実態

5 区テーマ実現を目指して

子どもが学習に興味・関心をもち、学習の効果を高める視聴覚教育 ～より身近で手軽に誰でも使用できるICT機器活用～

今回の学習では、絵画作品のよさを伝えるための文を書くために、絵画作品のどのようなところに着眼し、おもしろさやよさを見つけたかという評論のポイントが、重要になってくる。しかし、子どもたちは鳥獣戯画のような作品にそれほど馴染みも無く、教科書の絵や甲巻の絵の全てを写真やプリントでそのまま見せたとしても、そこによさやおもしろさを見出しづらく、「鳥獣戯画を読む」という文章を読んでいく学習に関心・意欲をもちにくいことが考えられる。そこで、導入段階で、鳥獣戯画について興味をもつことができるような見せ方をする必要があると考える。そこで、鳥獣戯画をデータとしてパソコンに取り込み、画像を切り替えながら見せることで、絵巻物のおもしろさを感じさせていきたい。また、児童が注目する場所を拡大して見せることで、鳥獣戯画の中に登場する蛙や兎、猿たちの表情や行動、登場人物の会話が想像しやすくなると考える。そうして、興味をもって鳥獣戯画のよさやおもしろさを導入段階で見つけることで、筆者である高畑勲氏が、どのようなところに着眼し、どのような表現方法でおもしろさや良さを伝えているのかにも興味をもって「鳥獣戯画を読む」を読む活動に入っていけるのではないかと考える。

6 評価規準

国語への関心・意欲・態度	書くこと	読む能力	言語についての知識・理解・技能
①絵巻物の魅力の伝え方をまとめ、その良さを伝えるための文を書くという願いをもち、絵巻物に対する筆者の見解に興味をもちながら、文章を読もうとしている。	②自分たちが多くの人にぜひ進めたいと思う事物のよさを、確かな根拠をもって選んだり、他と比較してのよさを捉えたりしている。 ③不特定の相手にもよさが伝わるように、複数の根拠や事例を挙げたりよさを表すのにふさわしい推薦するための語句使ったりしながら、事物を推薦する文章を書いている。	④意見を述べた文章や解説の文章などに対する自分の考えをもつために、必要な内容を押さえて要旨を捉えたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえたりして読んでいる。 ⑤筆者の意図と表現の工夫との関連について考えている。 ⑥文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりしている。	⑦文や文章を書く際に、用いた言葉が適切であるかどうかを感じ取りながら書いている。

7 単元の指導計画(全9時間)

学習活動と内容	評価規準と指導の手立て (○)
1 「鳥獣戯画」に出会い、学習課題を設定する。 ・「絵を読む」ということはどういうことなのかを考える。 ・鳥獣戯画を見て読み取ったことをワークシートに書き出す。 ・「鳥獣戯画を読む」の冒頭部分を読み、その中に感じられた筆者の評論の仕方の工夫について知り、学習課題を設定する。	①絵から自分が読み取ったことと冒頭の文章を比べながら文章を読み、「鳥獣戯画」のよさをクラスの人々に伝えるための文章を書くという学習に関心をもっている。 ○本文を読む前に鳥獣戯画の絵を提示し、絵を「読む」ことを体験させる。 ○絵から自分が読み取ったことを書き込めるワークシートを用いる。
『鳥獣戯画』を読む」で、どんな学習をしていくか考えよう。	
2 学習計画を立てる。 ・「鳥獣戯画」の魅力を伝える文章を書くために必要なことを出し合い、学習計画を立てる。 3・4 絵と文章を照らし合わせながら読み、筆者の見方をとらえる。 ・絵と文章を照らし合わせながら読む。 ・グループで線を引いた箇所や書き込んだことを話し合う。 ・絵から分かる事実と感想の関係について考える。 ・線を引いた箇所から読み取った絵巻物に対する筆者の評価に対し、感想をまとめる。 5 筆者は、自分の見方を読者に伝えるために、どのような表現や構成の工夫をしているのか読み取る。 ・書き出しや文末の工夫、絵の出し方、などの視点をもとに表現や構成の工夫点をまとめる。 ・表現や構成の工夫を学級全体で話し合う。 6・7 鳥獣戯画のいくつかの場面からよさを伝えたい場面を選び、文を書く。 ・自分の選んだ場面について読み取ったことを書く。 ・筆者の着眼点や表現の仕方を利用して、文を書く。	①絵巻物の魅力の伝え方をまとめ、そのよさを伝えるための文を書くために必要なことを考えている。 ④絵のどの部分を取り上げ、何に着目し、絵や絵巻物をどう評価しているかについて読み取っている。 ○筆者が、絵のどのような事実を根拠として、解釈したり評価したりしているのか、本文に線を引かせ、それに対応する絵を線で囲み、線で結ばせる。 ⑤筆者自分の見方を読者に伝えるために、どのような表現や構成の工夫をしているかについて考えている。 ○それぞれの表現や構成の工夫が、どんな効果をあげているかを捉えさせる。 ②③自分が選んだ場面のよさをとらえ、そのよさを伝えるために、筆者の着眼点や表現の仕方を利用して、文を書いている。 ○「鳥獣戯画」のいくつかの場面を提示し、自分がそのよさを伝えたい場面を選ばせる。 ○既習の「着眼点」を意識させて、まとめさせる。

8 自分が書いた文を推敲する。 ・自分が書いた文の表現や語句について見直す。	⑦文や文章を書く際に用いた言葉や表現が適切であるかどうかを判断して文章を書いている。 ○これまでにまとめてきた筆者の表現の工夫を生かした文になるように推敲させる。 ⑥文を読み合い、友だちと考えを交流し、自分の考えを広げたり深めたりしている。 ○各自の文を読み合うときには、絵を指し示しながら交流を進めさせる。
9 自分が書いた文を友だちと交流する。 ・同じ場面を選んだ児童で集まり、文を読み合い、共感するところや見方が違うところなどの感想を交流する。	

8 本時目標

「鳥獣戯画」のよさをクラスみんなに伝えるための文章を書くという学習に関心をもつことができる。

9 本時展開（1／9）

学習活動と内容	評価規準と指導の手立て（○）
1 「絵を読む」ということはどういうことなのかを考える。 ・文字ではないのに「読む」ってどういうことかな。 ・じっくりと見るということかな。 2 鳥獣戯画について知る。 3 本時のめあてを確認する。	「鳥獣戯画」のよさをクラスみんなに伝えるための文章を書くという学習に関心をもっている。 ○「絵を読む」ということは絵に対して自分なりの見方をもつことを確認する。 ○教科書にはない鳥獣戯画の画像をテレビにつないで画像を切り替えたり拡大したりしながら見せることで「鳥獣戯画」に興味をもたせるとともに、絵を「読む」ことの見通しをもたせる。
『鳥獣戯画』を読むで、どんな学習をしていくか考えよう。 4 蛙とうさぎが相撲をしている場面の絵を見ながら読み取ったよさやおもしろさを書く。 ・何をしているところかな。 ・この場所はどこかな。	○自分が読み取ったことを書きこむことができるワークシートを用意する。 ○テレビに鳥獣戯画を映しておく。

